

コロナ下の登山の実相記録 今は「そんな時代もあったね」の序盤だ

OWCC 中川和道 20200709

話は突然だった。3/19(木)夜の常任理事会を早退して大山北壁別山バットレスに登りに車で出発したら、何と、テレビニュースが「吉村大阪府知事はこの金土日 3/20-22、神戸-大阪間の移動の自粛要請を出した」という。しまった、あかんがな、もう、高速を走っていますがな。その後、緊急事態宣言が4/7に出され、終了予定だった5/6に延長となり5/31まで続いた。都道府県境をまたぐ移動は厳しく自粛要請されて「自粛警察」との言葉も生まれ、登山は前代未聞の縮小となった。この自粛期間中に中川が身近で接した登山の実相を記録しておこう。中島みゆきの名曲みたいに、そんな時代もあったねと、あとで笑える日が本当に来るだろうか。コロナ禍は、いま序盤だ。

中川はJR福知山線生瀬駅周辺に住んでいる。大阪労山の会員には、郊外に住んでいて日常的に登山できる環境にある人が意外に多いという。今回気づいたのだが、中川はすごい立地に住んでいる。地図を省くが、生瀬駅の南を登れば①六甲山縦走路まで3時間、武庫川を渡って北に登れば、②宝塚市立長尾山霊園まで立派なハイキング道が続き武庫川の高座岩上部にある三等三角点257.5mにいたる。青葉台住宅地からハイキング道への登山口には「青葉台毎日登山会」の札がある。今回はできなかったものの、生瀬駅から③蓬莱峡まで歩けばクライミングができる。帰り道の橋を右に渡れば④生瀬瀨水という人工せせらぎ道があり、地元の方々が毎日散歩しておられる。さらに生瀬駅はあの有名な⑤「旧福知山線廃線敷」の入口。たまたま有難い立地だ。

「三密を避けて」と言われて気づいた。電車にも車にも乗らないで自宅発ボッカ訓練を始めて3年、①②で中川は人と出会ったことがない。出会うのは、住宅地の中や④を毎日散策するご近所の方々だ。自粛期間になってからは、遠くから互いの存在を認知したらマスクをかけあい、近くでごあいさつ。離れたら直ちにマスクをはずす習慣が4月中旬には互いに確立した。マスクをかけて「大変ですねえ」と毎回笑いあう。何と、ご近所を認識しあういい機会となった。自粛期間になってからは、派手目の同じ帽子をかぶって歩き、たちまち覚えてもらったみたいだ。

「三密に無縁」な単独ボッカ訓練を何十回もやってきて、大きな危険にすぐ気づいた。2019年春、①の住宅地をぬけて登山道に入ったとたん、何と、どでかいハチが3匹も寄ってきた。肝を冷やして逃げ帰った。それ以来、1時間のボッカであっても、所属会OWCCに山行届を必ず出すことにした。さもないと事故になっても労山基金がもらえない。そう言えば以前、労山基金の審査で、自宅裏山の山頂神社まで毎朝ひと登りしてから出勤という方の事故の話聞いた。霜が降りた初冬の朝、足をひねり骨折だかを食らってしまった。「基金の対象にしてもらいたい」との申請を受けて深い議論がなされ、「山行届が出ていればOK」で落ち着いたと聞く。それと同じだと思う。

自粛中なのでほんのこれだけにとどめようと自分では遠慮して登山のレベルを下げて、ハチも危険も遠慮してくれはしない。そうなのだ、今回、2019年春の大きなハチのことを思い出した。基金の対象ではなくなったが、公園までの住宅地の道ですら工事中などで危ないこともあるのだ。

それで心配になって、大阪労山全会員向けメーリングリストOWAF-ML6/1と理事会6/25に口頭で理事の仲間に向かって「自粛中に登山して事故にあっけし、言うに言い出せなくて胸にしまい込んでいる仲間は近くにいませんか？基金申請など相談に乗ります。教育遭対部長中川までご連絡を」と呼びかけた。やみ登山にしたくなかったのだ。幸い該当の仲間はおられないようであった。

さて、生瀬駅はあの有名な⑤「旧福知山線廃線敷」の入口だ。廃線敷に向かう人々を、中川はほぼ毎日見つめてきた。2015年65才定年までは朝の生瀬駅で毎日、それ以降は自宅からスーパーなどへの往復道路で日中に、ほぼ2日に1回の割合で中川は彼らに出会い続けてきた。4月9日の緊急事態宣言のあとも、ほぼ毎日「旧福知山線廃線敷」に向かう人々がおられた。彼らは、自粛期間中にハイキングをあえて実行したご本人たちだ。彼らは何を感じておられるようだったのか、彼らに中川はどう接したのか、次号以下で書いてみよう。